

事業名	国営かんがい排水事業	地区名	あびらがわ 安平川
都道府県名	北海道	関係市町村名	あびらちょう 安平町
事業概要	本地区は、北海道胆振総合振興局管内東部に位置する安平町の水田及び畑を受益としている。 本地区は安平川を水源としているが、代かき期間の短縮や深水かんがいに対応した用水は確保されておらず、用水不足をきたしているとともに、用水施設は老朽化により維持管理に多大な費用を要している。 畑の用水は、降雨に依存せざるを得ない状況にあり、安定的なかんがい用水の確保がなされていない。 地区内を流下する光起川は未整備で、排水能力が不足しているため、降雨時及び融雪時には周辺の農地において湛水被害及び過湿被害が生じている。 このため、本事業では頭首工、揚水機、用水路及び排水路を整備するとともに、取水施設の統廃合を行い、併せて、関連事業により用排水施設、ほ場を整備し、土地生産性の向上、農作業の効率化、水管理の合理化を図り、農業経営の安定、地域農業の振興に資するものである。 なお、本地区に必要な用水は、国営かんがい排水事業「道央用水地区」で整備される夕張シューパロダム等に依存する。 【事業内容等】 受益面積 1,431ha（水田185ha、畑1,246ha） 主要工事計画 頭首工 1箇所(改修)、揚水機 2箇所(新設) 用水路 30.1km(新設) 排水路 4.1km(改修) 国営総事業費 10,400百万円（平成22年度時点 10,148百万円） 工期 平成 2 年度～平成27年度予定 （平成 2 年度～平成24年度 工事期間） （平成25年度～平成27年度 施設機能監視期間）		
評価項目	【事業の進捗状況】 平成21年度までの進捗率は、一期が100%、二期が13%で安平川地区全体では約85%である。		
	【関連事業の進捗状況】 水源依存している夕張シューパロダムを含む国営かんがい排水事業「道央用水地区」の進捗率は70%、道営事業等の進捗率は12%となっており、関連事業全体の進捗率は69%となっている。		
	【社会経済情勢の変化】 本地区の関係町であった旧追分町と旧早来町は平成18年3月に合併しているが、農業センサスでは旧町での統計による追分町（受益面積の87.2%を占める）の平成12年と平成17年の5年間の農家の動向等の情勢変化をみると、以下のとおりである。なお、農業粗生産額については、北海道農林水産統計年報によるデータのため、合併後の平成12年と平成17年の5年間の農家の動向等の情勢変化としている。 追分町の農業就業人口は、468人から485人に増加(3.6%)しており、就業人口全体に占める割合も24.5%から26.8%と4人に1人以上が農業就業者となっている。 農家数については、108戸から89戸に減少(17.6%)しているが、専業農家と第1種兼業農家を合わせた主業農家割合は、96.3%から98.9%に増加している。 経営耕地面積は、1,714haから1,627haに減少(5.1%)しているが、戸当たり平均経営耕地面積は16.0haから18.9haに増加(18.1%)している。 安平町全体の農業粗生産額は、畜産の増加(5.7億円)を主体として、82.2億円から88.0億円(7.1%)に増加している。 地域は、農家戸数が減少しているものの、優良農地が担い手農家へ集積され規模拡大が進んでおり、農業の生産額は地域経済の24%を占め、地域の基幹的な産業に位置づけられている。		

評価項目	【事業計画の重要な部分の変更の必要性の有無】 事業の施工に係る地域 現時点で受益地域を変更する必要はない。 主 要 工 事 計 画 現時点で主要工事計画を変更する必要はない。 事 業 費 平成22年度における国営総事業費は、10,148百万円であり、現計画の10,400百万円から物価変動により2%の減となっている。												
	【費用対効果分析の基礎となる要因の変化】 本地区では、作物生産量が増加する効果、営農経費・維持管理費が節減される効果、従来の施設機能が維持される効果を主な効果として見込んでいる。 費用対効果分析の基礎となる作物面積、作物単価、収量等については、現計画時点と比較し現況では変動が見られる。 安平町の農業経営基盤強化促進基本構想等や関係機関の意見を聴取したところ、農業情勢の変化に対応して、麦、大豆の品質、生産性の向上等により定着を図りつつ、高い収益性が期待される野菜等を組み合わせた経営の複合化を図ることにより、農業所得の確保を図ることとしており、現計画の営農計画を変えるものではない。 以上のことを踏まえ算定した費用対効果分析の結果は以下のとおりである。 <table><tr><td>妥当投資額 (B)</td><td>18,340 百万円</td></tr><tr><td>総事業費 (C)</td><td>16,747 百万円</td></tr><tr><td>投資効率 (B / C)</td><td>1.09</td></tr></table> なお、関連事業において実施中の夕張シューパロダムについては、施工時に得られたデータによる設計内容の照査等により、今後事業費の増嵩及び工期の延伸が現時点において見込まれ、これを踏まえた費用対効果分析結果は以下のとおりとなる。いずれも今回の再評価時点において、効果が費用を上回っている。 <table><tr><td>妥当投資額 (B)</td><td>18,255 百万円</td></tr><tr><td>総事業費 (C)</td><td>16,947 百万円</td></tr><tr><td>投資効率 (B / C)</td><td>1.07</td></tr></table> 注)妥当投資額、総事業費には関連事業を含む。	妥当投資額 (B)	18,340 百万円	総事業費 (C)	16,747 百万円	投資効率 (B / C)	1.09	妥当投資額 (B)	18,255 百万円	総事業費 (C)	16,947 百万円	投資効率 (B / C)	1.07
	妥当投資額 (B)	18,340 百万円											
	総事業費 (C)	16,747 百万円											
投資効率 (B / C)	1.09												
妥当投資額 (B)	18,255 百万円												
総事業費 (C)	16,947 百万円												
投資効率 (B / C)	1.07												
【環境との調和への配慮】 田園環境整備マスタープランに基づき、安平町では景観及び魚類の生息環境の保全に努めることとしている。 このため、本事業では、光起川排水路において魚道付多段式落差工の設置を行い魚類の生息環境に配慮している。また、用水路の整備にあたっては桜並木の保存を行い地域の景観の配慮に努めている。 今後は、工事の施工に際し、自然林を極力伐採しないよう配慮するとともに、浄化材の活用により工事期間中の汚濁水を適切に処理する等、引き続き自然環境との調和に配慮する。													
【事業コスト縮減等の可能性】 土質の精査による現地発生土の用水路工事基礎材への利用や借地農地における表土仮置き工夫による用地幅の縮減など、事業コストの縮減に取り組んでいる。													
【関係団体の意向】 北海道は、本事業の事業主体として、地域農業の動向や地元意向を的確に把握し、本事業の効果が十分発現されるよう、関係機関と連携を図り、本地区の早期完了を目指す必要があるとしている。また、関連事業として道営畑総事業等が予定されており、道などの関係機関との連携や地元意向を十分踏まえて、事業を実施する必要があるとしている。 関係町及び関係土地改良区は、地域農業の発展と農業経営の安定を図るため本事業は必要であるとしている。今後とも経費の節減や低コスト化等効率的な施工により事業費の縮減を望んでいる。また、事業効果発現のため、早期完了を図ることを望んでいる。													

【評価項目のまとめ】

本地域の農業は、特産品である「アサヒメロン」を代表とする施設園芸やアスパラガスなどによる集約的農業と、水稻・畑作などの土地利用型農業による多様で複合的な農業振興が図られている。

しかしながら、農作物価格の低迷、労働力不足、経営コストの低減の取組などの課題が発生しており、地域農業を取り巻く情勢は極めて厳しい状況にある。

地域内の稲作は、近年、良質・良食味米の出荷を目指しており、田植え期間の集中による代かき期間の短縮や冷害防止のための深水かんがいを行う必要があるが、代かき期間の短縮や深水かんがい等近年の営農に対応した用水が確保されていない状況である。また、地区内の畑地には野菜等が作付けされているが、かんがい施設が未整備であり、営農用水は降雨に頼っている状況にある。加えて地区内の用水施設はかんがい用水を反復利用するための施設が多数設置されているとともに、老朽化による維持管理費が増加していることから、用水施設の改修と統廃合が不可欠となっている。

このため本地域においては、不足する用水を新たに確保し、頭首工、揚水機、用水路及び排水路の整備や取水施設の統廃合を行うとともに、その他末端用水施設やほ場整備を行うことで、土地生産性の向上、水管理の合理化、農作業の効率化を図り、農業経営の安定を図ることの必要性に変化は無い。

本事業は、環境との調和への配慮及びコスト縮減に努めつつ進捗を図ってきたところである。関係団体からは関連事業とも連携を図り、今後ともコスト縮減に努め、早期に効果を発現することが求められている。

【技術検討会の意見】

老朽化した水利施設の課題解消や、都市近郊型農業を推進するためには、かんがい用水の早期確保が必要と認められる。

効果発現の観点から、水源としての夕張シューパロダムの進捗に合わせ、関連事業と一体となって本地区の整備を計画的に進められたい。

畑地かんがいモデル圃場での実証データ等をより多くの受益者に提供することが望まれる。

排水路の魚道付多段式落差工については、引き続きモニタリング調査を行い、効果の検証に努められたい。

【事業の実施方針】

不足する用水を確保し、収益性の高い野菜を組み合わせた経営の複合化や良食味米の安定生産等による農業経営の安定化を図るため、今後ともコスト縮減や環境との調和への配慮に努め、早期完了に向けて事業を着実に推進する。

また、事業効果の早期発現を図るため、本地区の水源である夕張シューパロダムを整備する「道央用水地区」の進捗に併せつつ、支線用排水施設等を整備する関連事業の推進に努める。

< 評価に使用した資料 >

国勢調査（平成12年、平成17年）

農林業センサス（2000年、2005年）

北海道農林水産統計年報（農業統計市町村別編 平成12年～平成13年、平成17年～18年）

工業統計（<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/tuk/010cmn/index.htm>）

商業統計（<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/tuk/023ccm/index.htm>）

農林水産省構造改善局計画部（監修）（1997）「[改訂]解説土地改良の経済効果」大成出版社

国営安平川土地改良事業変更計画書（平成16年7月北海道開発局）

国営安平川地区営農実態等把握調査結果（平成21年北海道開発局室蘭開発建設部胆振東部農業開発事業所調べ）

国営かんがい排水事業 安平川地区 事業概要図

